

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称 施策Ⅲ-4-3 景観の保全と創造

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長 都市計画課長 石田 弘至 電話番号 0852-22-5209

事務事業の名称	魅力ある景観の保全創造事業	
目的	(1) 対象	県・県民・市町村・事業者
	(2) 意図	地域性豊かな景観を守り伝えとともに地域にあった魅力ある景観づくりを目指す。
事業概要	平成3年にふるさと島根の景観づくり条例を公布し、景観施策を実施してきたが、平成16年に景観法が制定されて以降は、市町村が景観行政団体（景観法に基づいて良好な景観形成のための施策を実施していく自治体）に移行し、独自の景観計画（景観に関するまちづくりを進める上で基本となる計画）を策定することを支援する。 また、市町村、県民及び事業者が、景観づくりを進める際に、技術的助言、指導助言を行うとともに、県民の景観に対する意識啓発を図るため、普及啓発事業を行う。	

2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	景観計画策定市町村数（累計）	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			目標値		5.00	6.00	7.00	8.00	
式・定義	景観計画を策定した市町村の数		実績値	4.00	5.00	5.00	7.00		
			達成率		100.00	83.30	100.00		%
指標名	景観重点地区数（累計）	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位	
		目標値		24.00	26.00	28.00	30.00		地区
式・定義	市町村が景観計画で特に重要と定める地区の数		実績値	22.00	23.00	30.00	33.00		
			達成率		95.80	115.40	117.90		%

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	12,721	18,450
うち一般財源(千円)	0	2,961

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	(未選択)
---------------------	-------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

平成26年度末景観行政団体数は9市町（松江市、出雲市、浜田市、益田市、大田市、江津市、奥出雲町、津和野町、海士町）であり、景観計画と法委任条例の施行団体数は7市町（松江市、出雲市、益田市、大田市、江津市、奥出雲町、津和野町）である。
平成26年度末時点で、美しい街並みづくりや環境美化活動などの景観形成住民協定は64件、築地松の景観保全住民協定は159件締結されている。
平成26年度におけるしまね景観賞は106件の応募があり、10件の表彰を行い、平成26年度末時点での事業が始まってから（平成5年～）の応募累計は、2,817件である。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

平成26年に浜田市が景観行政団体になったこと、江津市及び益田市が景観計画を策定したこと。
江津市施行：H26、益田市施行：H27
また、景観形成住民協定が江津市において、1件締結されたこと。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

- ①困っている「状況」
地域における良好な景観形成や景観を活かしたまちづくりは、住民に最も身近な基礎的自治体である市町村がその中心的な役割を担うことが望ましいため、景観行政団体への移行を増進する必要があること。
景観行政団体に移行しながらも景観計画を策定できていない市町村があること。
しまね景観賞における応募数の減少が景観への意識低下につながりかねないこと。
- ②困っている状況が発生している「原因」
市町村における厳しい財政事情、人員体制等により景観行政の推進が困難な状況にあるということ。
しまね景観賞では、30歳以下の応募が0件となっており、若者による関心度が低いこと。
- ③原因を解消するための「課題」
・市町村に対する財政的、技術的支援。
・市町村との連携強化。
・しまね景観賞においては、普及啓発の強化。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

- ・市町村が地域の特性に応じた景観行政を行えるよう、景観行政団体への移行について指導助言を行うほか、基礎調査費を助成するなどの支援を行う。
- ・景観行政団体になった市町村には、財政的課題、人的課題が解決できるよう景観計画策定費の助成のほか、実行委員会やワークショップ等へ参加して指導助言を行う。
- ・市町村の理解を深めるよう景観行政担当者会議などを通して、市町村との連携強化を図る。
- ・市町村が景観行政団体として、主体的に景観行政を進める一方、県は、広域的調整、行政団体間調整を行い、全県的な普及啓発を推進する。
- ・しまね景観賞は、他部門での応募が増加するよう普及啓発を強化し、また、若者への関心度を深めるよう電子媒体による応募方法の検討。

◎課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）